慣用句(かんようく)の きまりを 書こう⑤

きまりを 文に して 書こう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

問1・問2とも、4つの ことばの 意味から きまりを 見つけ、それぞれの 下の 線に 1文で 書こう。

書き方 〔 〕に ことばを 入れて 書く。〔体の ぶぶん〕の ことばは、〔どんな はなし〕が 多い。

れい 腕(うで)の ことばは、うでまえの はなしが 多い。(1～2行で 書けます。線は あまっても よい)

問1 胸(むね)の ことば

(1) 胸(むね)が 潰(つぶ)れる ＝ かなしさや しんぱいで、たまらなく くるしくなる

(2) 胸(むね)が 騒(さわ)ぐ ＝ わるい よかんが して、おちつかない

(3) 胸(むね)に 秘(ひ)める ＝ 心の 中に しまって おいて、人には 言わない

(4) 胸(むね)を 焦(こ)がす ＝ あることを 強く 思って、せつなく なる

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問2 目の ことば

(1) 目を 向ける ＝ あることに 気づいて、注意を はらう

(2) 目星を つける ＝ だいたいの 見当を つけて、ねらいを 決める

(3) 目処(めど)が 立つ ＝ これから どうなるか、見とおしが つく

(4) 目端(めはし)が 利(き)く ＝ その 場の ようすに すばやく 気づいて、うまく うごく

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「慣用句」のプリント一覧がひらきます